

# 茶羅会だより 十六号

桜の語源は「サ」と「クラ」を合わせたもの。サは穀霊を、クラは神が降臨する磐座(いわくら)を意味した。

桜に「靱蒔桜」「苗代桜」と開花時期から田植えの期日を決めていた。花見は豊作を祈念する農耕儀礼であり、満開の桜の下で神々とともに祝う予祝行事であった。

昔は満開の桜のもとで農耕に勤しみながら手を止めて眺めていた。



## 1・あいさつ

三月は「四八日だれ」のような日々が続きました。雪が多くて「江ざらい」も四月にやっと出来ました。

また三月一日に発生した未曾有の巨大地震と大津波によって、東北・関東はじめ、国内の広範な地域に甚大な被害をもたらされ、なおかつ原子力発電所が極めて深刻な状態が続いています。多くの人々が避難生活も強いられ、家族の安否もままならず今なお深い悲しみ

の中で頑張っておられます。

今、私たちは、何を成さねばならないのか。激甚災害に遭われたすべての方に、一人ひとりが思いやり、精一杯の救援活動を行ってまいります。

## 2・金戸の桜

江戸彼岸桜

中川力家の西、中仙道川の縁に咲く桜は金戸で一番樹齢のある桜と云われる江戸彼岸桜である。古老に聞くに七・八〇年前から幹の大きさが変わらない。



神明社の桜

宮の桜は北陸固有の「越の彼岸桜」である。ソメイヨシノと比べて開花時期が数日早く、花はやや赤みがちで小型だが美しさには定評がある。



松田一夫家の桜

金戸で一番の大振りのソメイヨシノであろう。樹齢六〇年ほどである。主人は縁側での花下独酌が無常の喜びであるという。一人で拗ねて飲むのが性に合うのか、それとも花見も酒も一人で楽しむのが正統派であると、泰然と座す姿が目につく。

また白川郷本覚寺で新種として発見された八重の花びらをつける「太田桜」がある。遅咲きで五月中頃に咲く。



石橋秀信家の桜

紅白梅かと紛う桜が二本並んでいる。樹齢は三〇年余りであるが、残雪残る東山を背景に咲く桜は夫婦桜のようである。「夫婦桜」と名づけられた桜は全国に沢山あるが、石橋家はお雛様のように初々しく並んでいる。お雛様の時期に咲く早咲きの「雛桜」の品種もあるという。左方の紅桜は野口の「向の桜」と同じ江戸彼岸桜である。



中川富士夫家の桜

俳人中川尚三の生家に咲くソメイヨシノで樹齢五〇年ほどである。富士夫氏は母親が苗木を買って植えたのを覚えていると云う。

尚三は教員生活後に帰農して梨の果樹園を営みながら、金戸機場の初代社長を務めた。晴耕雨読の傍ら海紅派の自由律の俳句を楽しみ中塚一碧楼・野村満花城らと交遊した。『尚三句集』や菩提寺瑞泉寺の門前横に句碑がある。



南山田保育所跡の桜

金戸は役場・警察・学校・保育所・消防などが建つ文教・行政の中心であった。南山田小学校の校庭に、何本もの桜があつたことを記憶している村人は、何人いるであろうか。昔の写真には校庭いっぱい咲いている。



中知山の桜



雛桜かな

